

# 弘前大学学報



外国人教師館 Christmas ver.

第 129 号  
平成26年12月号

**学内ニュース**

○COC推進室の看板上掲式を挙	-----	1
○附属図書館リニューアルオープン記念講演会を開催	-----	2
○八戸サテライト「八戸地域学講座」開催	-----	3
○「弘前大学あおもりこれからゼミ」を開催	-----	4
○「青森地域COC推進協議会」を開催	-----	5
○「知財塾」を開催	-----	6
○平成26年度「第67回東奥賞」受賞	-----	7
○学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム 平成26年度共通授業全日程終了	-----	8
○「青森県経済の現状と今後の展望等に係る説明会」を開催	-----	9
○推薦入試I合格者の入学前交流プログラムを実施	-----	10
○深浦町におけるサーモン養殖実証事業に関する 三者連携協定を締結	-----	11
○弘前大学・弘前市「国際交流会」開催	-----	12

<b>諸会議</b>	-----	13
------------	-------	----

**人 事**

○人事異動	-----	15
-------	-------	----

<b>主要日誌</b>	-----	17
-------------	-------	----

<b>学内規則</b>	-----	18
-------------	-------	----

---

## COC推進室の看板上掲式を挙

12月2日（火）、「COC推進室」の看板上掲式を挙し、佐藤学長、吉澤企画担当理事、加藤総務担当理事、伊藤教育担当理事及び曾我副理事と多数の推進室関係者が出席しました。

同推進室は、平成26年度に本学が文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」の実施及び連絡調整等の業務を行うことを目的に、今年11月に新設され、本学が、教育・研究・社会貢献の各事業において、青森県・弘前市・産業界・地域住民らと協働し、一体となって取組む「青森ブランドの価値を創る地域人財の育成」に関する企画立案や実行を担当します。

上掲式では、佐藤学長と同推進室長である吉澤企画担当理事による看板の上掲が行われた後、佐藤学長が「COCの拠点ができたことは大変喜ばしいこと。今後は成果が問われるので、地域との取組を強化していきたい」と挨拶しました。また、吉澤企画担当理事からは「推進室は青森県に活力を送り込むポンプのようなもの。そのためにはポンプ自身が元気でないといけない。私たち自らが活力を持って、行動力を備えた学生を育て、地域の発展に貢献したい」との抱負が述べられました。



看板を上掲する佐藤学長（左）と吉澤企画担当理事（右）



左から曾我副理事、加藤総務担当理事、佐藤学長  
吉澤企画担当理事、伊藤教育担当理事

---

## 附属図書館リニューアルオープン記念講演会を開催

12月2日（火）、弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールにおいて、劇作家・演出家の平田オリザ氏を招き、「演劇から考えるコミュニケーション」をテーマに講演会を開催しました。この講演会は附属図書館が10月1日（水）にリニューアルオープンした記念に開催したもので、当日は学生、教職員、一般市民ら約150名が参加しました。

講演会ではまず、本学学生24名の参加でコミュニケーションゲームを行いました。平田氏が質問したことに対して、同じ回答をした人たちがグループを作るなどのゲームが行われ、学生は大きな声を出してワークショップの様々な形を自ら体験しました。

後半はテーマに沿ってコミュニケーション能力とは何か、それは本当に必要とされているものなのか、もし必要とされるなら、それはどこで学ぶべきなのかについてお話されました。観客への質問を交えながら、またわかりやすい身近な事例を挙げながらの楽しい講演に聴衆は興味深く聞き入っていました。



平田オリザ氏と本学学生によるワークショップ



ホワイトボードを使いながら講演する平田オリザ氏

## 八戸サテライト「八戸地域学講座」開催

12月3日（水）、八戸サテライト（八戸商工会議所1階）にて、「平成26年度八戸地域学講座『八戸藩立藩350年「八戸学」から八戸の未来を考える～八戸の今、昔を学び、将来ビジョンを想い描く～』」を開催しました。

八戸サテライトでは、本学と八戸地域の密接な連携を図ることを目的に、地域企業等のニーズと本学のシーズのマッチング、公開講座・講演会、広報活動などを行っており、同講座もその一環として八戸の歴史や文化を学びながら地域の将来ビジョンや地域振興策のあり方について考えることを目的に新規事業として、平成26年12月3日から平成27年2月25日まで全10回の講義を予定しているものです。

同講座初日は、大河原八戸サテライト室長より開講の挨拶の後、八戸市博物館館長工藤竹久氏から『「八戸人の源流の歴史」～縄文・弥生・南部氏の生活文化をたどる～』と題した講義が行われました。講義では、縄文時代の八戸地域における土器や埋蔵されていた服飾品等を紹介することに始まり、古代の東北北部の住民「蝦夷」の生活文化、鎌倉時代の南部氏、近代における八戸地域の偉人など、工藤氏がこれまで培ってきた知見を基に様々な八戸地域の歴史が紹介され、参加した23名の受講者らは熱心に耳を傾けるとともに、途中笑い声も響くなど楽しみながら学んでいました。

同講座には、募集定員を超える多数の申込みがあり、幅広い年齢層の市民らが参加し、八戸市民の関心の高さが窺えました。



大河原八戸サテライト室長による開催挨拶



八戸市博物館 工藤館長による講義



八戸市博物館 工藤館長の講義



講義を聴く市民

## 「弘前大学あおりこれからゼミ」を開催

12月3日（水）に、「弘前大学あおりこれからゼミ」をプラットフォームあおりとの共催で開催し、38名の学生が参加しました。参加した学生は、ファシリテーターの原正紀氏、ゲストの坂巻亜矢子氏、佐藤学長、伊藤教育担当理事とともに、「リーダー論」について活発なディスカッションを行いました。

本ゼミの実施の背景には、「平成26年度 文部科学省 地（知）の拠点整備事業」に本学が採択されたことがあります。本学では、本事業を通して、青森の新しい未来を切り拓き、地域の産業・生活・社会システムに新たな価値を創造できる「人財」を育成することとしています（弘前大学における地（知）の拠点整備事業に関する詳細はこちらです）。このような人財に、「リーダーシップ」は必要不可欠な資質であることから、意見交換を通じて、学生が、自らの「リーダー像」のイメージを具体化・深化させることを目的に本ゼミを実施しました。

本ゼミには、地域企業へのビジネスプラン提案、小中学校での教育実習、地域住民の方々との交流等、様々な実践経験をもつ学生が多く参加しており、自身の体験をもとに、自分なりのリーダー論について積極的に発言していました。さらに、学長の体験談等を聞くことにより、リーダーを雲の上の存在としてではなく、身近な存在に感じるとともに、自らが目指すべき立場・果たすべき役割としての意識が高まったようでした。

本ゼミの様子は、ATV青森テレビにて、平成27年1月17日（土）午前11時から11時30分に放送されました。



ファシリテーターからの意見を真剣に聞く参加者



リーダー論について自身の体験談を語る佐藤学長

## 「青森地域COC推進協議会」を開催

12月5日（金）、「青森地域COC推進協議会」を開催し、佐藤学長、三村申吾青森県知事、葛西憲之弘前市長ら16名が出席しました。

今年11月に新設された同協議会は、平成26年度に本学が文部科学省に採択された「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に関する提言と評価を行うため、学長、理事、青森県知事、弘前市長、青森県内の企業関係団体の長及びNPO法人関係者らによって構成され、学長が会長を務めます。

初開催となった今回の協議会では、各委員の挨拶の後、COC推進室長の吉澤企画担当理事、同副室長の曾我副理事から本学COC事業の概要や取組についての説明があり、各委員による活発な意見交換が行われました。

協議会の終盤では、佐藤学長による『「地域志向」大学改革宣言』が読み上げられた後、佐藤学長、三村知事、葛西市長の三者による握手が交わされ、本学と連携自治体の協力関係を再確認しました。



『「地域志向」大学改革宣言』を読み上げる佐藤学長



握手を交わす佐藤学長㊤、三村青森県知事㊤、葛西弘前市長㊤

## 「知財塾」を開催

知的財産本部は、12月5日（金）に医学研究科基礎棟1階大会議室において、医薬品・バイオ系ビジネスの特殊性を踏まえた戦略的なライセンス契約交渉や、アライアンスの基本原則、事業開発プロセスにおいて大学が留意すべき点など、創薬関連アライアンスにおける実践的な知識に触れ、理解を深めていただくことを目的とし、「知財塾」を開催しました。

当日は、国内及び外資系大手製薬企業においてアライアンス業務責任者を歴任した、有限会社医薬ライセンス研究所代表取締役 岩並澄夫氏を講師に迎え、「成功する創薬関連アライアンスの実践講座」と題しご講演いただきました。岩並氏からは、産学連携の現状の概観やアライアンス基本原則及び実施プロセス、事業開発プロセスにおいて大学が留意すべき点等について解説いただき、より良いアライアンスの推進のためには、研究の形を工夫し製品・技術の市場価値を向上させること、併せて、不利にならない契約書を締結し、それから具体的な作業に入ることが必須であること等について解説がありました。

また、研究開発と事業開発は産学連携の両輪であり、製品・技術の導出と提携の成否の命運は、研究戦略・開発戦略・特許戦略で形作られ、アライアンス戦略とその実践結果で決定されるため、研究開発段階から常に提携を意識して活動する必要がある旨、説明がありました。

37名の参加者は、医薬品・バイオ系ビジネスの特殊性を踏まえたアライアンス戦略や特許戦略等について熱心に聞き入っており、具体的な事例に基づいた質疑応答も活発になされ、実践的なアライアンス戦略について理解を深める有意義な場となりました。



知財塾の様子



講師の岩並氏



## 平成26年度「第67回東奥賞」受賞

本学は、プロテオグリカン（PG）に関して、従来の技術に比して安価で大量に抽出する世界初の技術を確立したことにより、各種製品への展開の道筋をつけ、地域経済の活性化につながる貢献をしたことが評価され、事業を連携して実施してきた株式会社角弘、地方独立行政法人青森県産業技術センターとともに、「第67回東奥賞」を受賞することとなりました。

「東奥賞」は、東奥日報社が昭和23年に創刊60周年記念事業として、青森県内の産業、学術、文化、スポーツ、社会福祉などの各分野で活躍し、郷土の発展に多大な貢献をされた個人や団体を表彰するため、創設したものです。

12月6日（土）、青森国際ホテル（青森市）において行われた贈呈式では、佐藤学長が受賞者として登壇し、東奥日報社の塩越社長から賞状とメダルの授与を受けました。その後、三村青森県知事及び、青森県プロテオグリカンブランド推進協議会会長で株式会社カネショウの代表取締役社長の楢引利貞氏からご祝辞をいただきました。

引き続き、佐藤学長からは、受賞に対する御礼とともに、PGだけではなく自然科学の成果は時代とともに古くなっていくものであるが、関係する皆様のご協力により埋もれることなく大きな成果へつながったことに対する謝辞と、今後も科学的成果を以て地域に貢献していきたい、との受賞の言葉がありました。



東奥日報社塩越社長から表彰状を受け取る佐藤学長



受賞の言葉を述べる佐藤学長

## 学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム 平成26年度共通授業全日程終了

本学を含む弘前市内の6大学が加盟している学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムでは、9月6日～12月6日の期間「平成26年度共通授業」を全5回開催しました。

この共通授業は、今年で2回目の開催で、コンソーシアム構成機関の学生を対象に、弘前市の観光や街づくりなど各担当分野の現状と課題について、弘前市長並びに弘前市職員が講演を行い、グループ毎に課題の解決策を討議することにより、地域の課題を具体的に理解し、その解決について自ら考える人材を育成することを目的としています。

今年度最終回となった12月6日には、弘前市長を講師にお招きし「地域の課題を理解し、地域の発展を考える」をテーマに、学生達が弘前市に住んでみて不満に思ったことや、自分たちが解決したいこと、取り組みたいことなどについて班ごとに案を出し合い、課題解決のために必要な行政支援についてグループワークを行いました。学生達からは、「弘前は魅力的な食材やお祭りなど沢山あるが、情報発信力が低いため県外の人に知られていない。知ってもらうためにSNS等を使って総合情報発信サイトを作ってみてはどうか?」といった提言や、「大学の外で学生同士が交流できるスペースがあれば、学生企画のイベントが増えるのでは?学生がそのスペースを運営するので、市には場所の確保を支援してほしい」など様々な意見が出されました。

講義後は、弘前市長と学生達が車座となつての話し合いが行われました。学生達から「空き家をもっと活用してスペースの無駄をなくすべき」という意見や、「弘前市が学生アルバイトを募集して、学生に社会で働く場を提供してはどうか?」などの意見が飛び交いました。弘前市長からも「もっと学生に積極的に地域に関わってほしい。ぜひとも学生発のベンチャー企業を作ってもらいたい。弘前市としても学生の意見を参考にして、市政運営に活かしていきたい」と互いに忌憚のない意見を出し合い、充実した話し合いが行われました。



挨拶を述べる弘前市長



グループワークに取り組む学生達



意見を発表している学生達



弘前市長を囲んでの車座ミーティング

## 「青森県経済の現状と今後の展望等に係る説明会」を開催

本学では、社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業として、幹部級職員を主な対象とした「青森県経済の現状と今後の展望等に係る説明会」を、12月9日（火）に弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールで開催しました。

この説明会は、先に行われた青森県基本計画等に関する説明会に続く第4回目で、地域志向大学として地域貢献活動を一層推進していくために、青森県の経済に対する見識を深めることを目的として開催されました。

説明会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員など学内幹部職員ら、学外からは永澤弘前商工会議所会頭や弘前市商工政策課職員など、学内外合わせて46名が出席しました。

説明者の日本銀行青森支店 山口智之支店長からは、「青森県の経済は、数値的にはリーマンショック前まで回復したが、景気回復の実感は広く伝わっていない状況である。併せて、昨今の急転している為替相場や国際状況にも注意を払う必要がある。」との現状分析が述べられました。

説明会後半には、日本銀行が展開している景気回復対策についての概要説明と活発な質疑応答が行われ、出席者の関心の高さを感じさせるとともに、本学には地域経済へのさらなる貢献をお願いしたいとの要望が出されました。



説明する山口日本銀行青森支店長



質問する佐藤学長

## 推薦入試 I 合格者の入学前交流プログラムを実施

12月12日（金）、弘前大学創立50周年記念会館において「推薦入試 I 合格者の入学前交流プログラム」が、人文学部、理工学部、農学生命科学部の3学部の合格者（生徒・保護者）総計151人の参加を得て開催されました。

このプログラムは、推薦入試 I 合格者及びその保護者を対象に、入学前に教員や他の学生と触れ合う機会を設けることによって大学生活等への不安をやわらげ、入学前学習の動機付けに繋げることを目的として行うものです。

当日は、伊藤成治理事（教育担当）・副学長の挨拶の後、第1部（全体ガイダンス）、第2部（学部別ガイダンス）、第3部（教員との交流会）を行いました。全体ガイダンスでは大学生活全体のアドバイスや経済支援などについて、学部別ガイダンスでは、教育課程等の概要や、入学までの学習指導、校内見学、先輩との交流、就職に関する説明等を行いました。

最後に、教員等との交流会では、各学部教職員、先輩学生、プログラム参加者による交流を行い、最初は緊張の面持ちだった参加者も次第に打ち解けあい情報交換するなど楽しい一時となりました。

また、交流会終了後、希望者を対象に「学生寮の見学」も行いました。

参加者からは、「情報が得られて安心した」、「役に立った」、「入学まで何を勉強しておけばよいかがあった」等の声が寄せられました。



学部別ガイダンス



懇親会

## 深浦町におけるサーモン養殖実証事業に関する 三者連携協定を締結

食料科学研究所は、深浦町と株式会社オカムラ食品工業の間で、相互の発展に資するため三者が包括的な連携のもと、深浦町におけるサーモン養殖の可能性調査及び新産業創出等の分野において相互に連携・協力する協定を12月15日（月）に締結しました。

ホテル青森で行われた協定書調印式には、深浦町から吉田町長、菊池副町長、坂本教育長が、株式会社岡村食品工業から岡村代表取締役社長、岡村相談役、岡村顧問が、本学から佐藤学長、大河原社会連携担当理事・副学長、羽田副理事、嵯峨食料科学研究所長、福田准教授が出席し、吉田町長、岡村代表取締役社長及び嵯峨食料科学研究所長が協定を締結しました。

調印にあたって、吉田町長からは、「深浦町における第一次産業の振興と雇用の創出へ向け、本協定の締結を契機に、衰退している水産業を持続的な産業と繋げ、地域創成の動きを強めたい。」と、岡村代表取締役社長からは、「生食サーモンの需要は世界的に拡大しており、国内での供給が必要であると感じていたが、立地条件の面から深浦町では大規模養殖事業の展開が可能であり、また、本事業を通じて青森県及び深浦町の活性化に貢献したい。」と、嵯峨食料科学研究所長からは、「基礎・応用的学術面から本事業を展開し、地方からの国際貢献へと繋げたい。」とそれぞれ挨拶がありました。

本連携協定の取り組みでは、10年後をめどにサーモン養殖の年間出荷量を1万トン、販売額120億円の産業創出を目指しており、地域から大きな期待が寄せられています。



協定書締結の様子

## 弘前大学・弘前市「国際交流会」開催

本学では、弘前市在住の留学生と弘前市関係者がふれあい、相互理解を深めるため、12月25日（木）、弘前大学創立50周年記念会館において「国際交流会」を開催しました。

本学では、学都・弘前に存立する国立大学法人として、これまで弘前市より国際交流に関する多くの支援を受けてきました。「弘前市私費留学生就学援助事業」、「留学生パスポートひろさき事業」等、留学生はこれらの制度を活用し、市民との交流も深めながら、実り多い留学生活を送っています。

初めて開催された「国際交流会」では、佐藤学長、葛西弘前市長、大河原理事（社会連携担当）の挨拶の後、弘前市の援助事業を受けている留学生3名から、弘前市への感謝及び充実した大学生活の様子が語られました。

また、北日本新エネルギー研究所の村岡所長及び所属学生から「学生市民協働プログラム」の実施報告があり、本学と弘前市の協力体制を深めていくことの重要性が発表されました。

交流会の参加者は約130名の盛会となり、弘前市の企業関係者も多数参加した会場では、本学に在籍する留学生との交流を楽しんでいました。



挨拶する葛西弘前市長



懇談する留学生及び葛西市長



留学生による発表の様子



発表を聞く佐藤学長（左）、大河原理事（中央）、葛西市長（右）

---

## ■ 諸 会 議

### ▼役員会

12月2日（火）

#### 審議事項

- 1 国際教育センター英語コミュニケーション部門業績評価案について
- 2 国立大学法人弘前大学職員給与規程の一部改正について

#### 報告事項

- 1 教員組織の再編について
- 2 ハラスメントに関する相談件数及び対応状況について
- 3 年俸制の導入計画（案）について
- 4 平成26年度弘前大学グローバル人材育成事業学生海外 PBL プログラムの採択について
- 5 「トビタテ！留学 JAPAN」について
- 6 平成26年度弘前大学学術特別賞の授賞者決定について
- 7 「イノベーションコーディネータ大賞 文部科学大臣賞」受賞について
- 8 総合情報処理センター計算機システムの更新に伴うメールアドレスの変更について
- 9 特別運営費交付金「教育改善推進枠」の配分について
- 10 編入学試験における出題ミスについて
- 11 第48回北東北国立3大学連携推進会議連携協議会（平成26年11月28日開催）について
- 12 「地域志向」大学改革宣言（学長宣言）について

12月15日（月）

#### 審議事項

- 1 北東北国立3大学連携推進会議について
- 2 国立大学法人弘前大学管理運営規則の一部改正について
- 3 弘前大学放射線安全機構規程の一部改正について

#### 報告事項

- 1 学部改組について
- 2 平成25年度決算検査報告説明会について
- 3 会計検査院実地検査について
- 4 国立大学法人弘前大学女性職員休養室の設置について
- 5 「弘前大学あおもりこれからゼミ」について
- 6 研究活動の不正行為への対応について
- 7 グローバル人材育成事業「学生市民協働プログラム」中間報告会について
- 8 その他  
(1) 弘前大学のプロモーションムービーについて

### ▼教育研究評議会

12月9日（火）

#### 審議事項

- 1 教授会の役割等について

#### 報告事項

- 1 教員の採用等について
  - 2 ハラスメントに関する相談件数及び対応状況について
  - 3 「地域志向」大学改革宣言（学長宣言）について
  - 4 平成26年度弘前大学グローバル人材育成事業学生海外 PBL プログラムの採択について
  - 5 トビタテ！留学 JAPAN について
  - 6 平成27年度推薦入試・社会人入試の実施状況について
-

- 
- 7 平成27年度大学入試センター試験における本学の志願者割当数について
  - 8 編入学試験における出題ミスについて
  - 9 平成26年度弘前大学学術特別賞の授賞者決定について
  - 10 中国衡陽師範学院との覚書締結について
  - 11 「イノベーションコーディネータ大賞 文部科学大臣賞」受賞について
  - 12 総合情報処理センター計算機システムの更新に伴うメールアドレスの変更について
  - 13 委員会等報告
    - (1) 教育委員会（11月26日開催分）
    - (2) 研究委員会（9月19日開催分）
    - (3) 21世紀教育センター運営委員会（11月20日開催分）
  - 14 その他
    - (1) 次回以降の開催予定日

▼教育委員会

12月24日（水）

審議事項

- 1 授業科目の履修成績に対する異議申立てに関わるガイドライン（案）について
- 2 FD活動におけるポイント制の廃止について
- 3 その他

報告事項

- 1 平成28年度（2016年度）授業日程【暫定版】について
- 2 平成26年度岩谷元彰弘前大学育英基金選考結果について
- 3 ゆめ応援プロジェクト選考結果について
- 4 平成26年度日本学生支援機構奨学生の臨時採用について
- 5 課外活動団体の結成について
- 6 その他
  - (1) 推薦入試I合格者の入学前交流プログラムについて
  - (2) ジェネリック・スキル測定（PROGテスト）について



# 人 事 異 動

## [採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成26年12月1日		島田 照久	助教(理工) [H28.03.31まで]

## [配置換]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成26年12月1日	専門員(COC準備事務室)	唐牛 孝明	専門員(学務・教改推室)
平成26年12月1日	一般職員(COC準備事務室)	嶋田 雅史	一般職員(学務・教改推室)

## [命]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成26年12月1日	課長(学務・教務)	澤田 佳代	学務部教務課教育改革推進室長
平成26年12月1日	教授(教育)	大高 明史	教育学部副学部長 [H28.01.31まで]

## [休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成26年12月1日	係長(施設・整計)	田村 貴之	休職更新 [H26.12.31まで]
平成26年12月1日	一般職員(財務・予企室)	島田 裕介	休職更新 [H27.01.31まで]
平成26年12月1日	看護師(病・看護)	大沢 美紗姫	休職更新 [H26.12.31まで]
平成26年12月4日	副看護師長(病・看護)	工藤 文子	休職開始 [H26.12.31まで]
平成26年12月11日	看護師(病・看護)	小菅 恵子	休職更新 [H27.03.26まで]
平成26年12月26日	主任(研推・学情)	熊谷 千賀子	休職更新 [H27.03.31まで]

## [育児休業]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成26年12月10日	助産師(病・看護)	松田 愛	育児休業開始 [H28.3.31まで]

## [離職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成26年12月31日	主任(学務・学生)	福岡 咲子	辞職

発令 年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成26年12月31日	助教(医)	木村昭利	辞職
平成26年12月31日	助手(病)	二階春香	辞職
平成26年12月31日	看護師(病・看護)	佐藤靖子	辞職

---

## ■ 主要日誌

- 12月2日 役員会  
COC推進室看板上掲式  
附属図書館リニューアルオープン記念講演会
- 3日 八戸サテライト「八戸地域学講座」  
弘前大学あおもりこれからゼミ
- 5日 青森地域COC推進協議会  
知財塾
- 6日 平成26年度「第67回東奥賞」授賞式  
学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム  
平成26年度共通授業全日程終了（9月6日～12月6日）
- 9日 教育研究評議会  
青森県経済の現状と今後の展望等に係る説明会
- 12日 推薦入試I合格者の入学前交流プログラム
- 15日 役員会  
深浦町におけるサーモン養殖実証事業に関する三者連携協定締結
- 24日 教育委員会
- 25日 弘前大学・弘前市「国際交流会」

---

## 学内規則

(平成26年12月26日一部改正)

### ○国立大学法人弘前大学職員給与規程

国家公務員に準拠し、俸給の調整額の支給に係る調整基本額を改正するため、上記の規程の一部を改正した。

(平成26年12月26日一部改正)

### ○国立大学法人弘前大学職員の初任給、昇格及び昇給等の基準に関する細則

青森県教員に準拠し、昇格時号俸対応表を改正するため及び所要の経過措置を定めるため、上記の細則の一部を改正した。

(平成26年12月26日制定)

### ○弘前大学学生会館使用細則

使用者の範囲、使用の許可・取消し及び使用量の徴収区分を明確にするため並びに学生会館の改修により室の用途を変更したことに伴い、上記の細則の一部を改正した。

(平成26年12月26日廃止)

### ○弘前大学研究用微生物安全管理細則

最新の科学的知見の集積を勘案し、微生物レベル表の分類を見直したことに伴い、上記の細則の一部を改正した。

(平成26年12月26日一部改正)

### ○弘前大学内地研究員制度実施要項

### ○国立大学法人弘前大学旅費規程

### ○弘前大学研究員受入れ規程

「内地」という名称を日本国内を示す一般名称である「国内」に変更するため及び国内研究員の派遣の手續等に必要書類を明確にするため、上記の要項等の一部を改正した。

弘前大学学報第129号

弘前大学総務部広報・国際課  
036-8560 弘前市文京町1  
電話 (0172)36-2111